

易不易の倫理はよく身に付く言葉です。そしてセオリーとして
よく聴く実践です。礼儀を教へる事。 2022.7.9~7.15

今週の 倫理

7月のテーマ | 易不易の倫理

1289号

お早う。至学館の率先垂範 くれは...の事、おみせはう!
幸せ氣にアホ一息

純粹倫理の基礎的な原理に「七つの原理」があります。その一つが「易不易の原理」です。「易」とは変えなければならぬものを意味し、「不易」とは変えてはいけないものを指します。

今週は、うどん屋を営むY氏の事例をご紹介します。Y氏は、三十代半ばで父から事業を継承しました。経営者として半人前という認識のY氏は、経営の指針となるものを求めていた際、倫理法人会の入会を勧められました。

経営者モーニングセミナーで純粹倫理を学ぶと、「お店を良くしたい」「社員に元氣よく働いてほしい」との思いが強くなりました。自分のお店に目を向けると、社員は真面目に仕事をしています。しかし、挨拶の声が小さい、清掃が徹底できていない、売り上げ向上のためのアイデアが出ない等多くのことが目に付いたのです。

店内を改革するため、まずは活力朝礼を導入しました。そして「朝礼で社員がイキイキと働いてほしい」との期待を抱きながら、気をつける姿勢や挨拶の練習、「職場の教養」の輪読、経営理念の斉唱等を指導しました。併せて、週一回の勉強会を開催し、社員たちからの意見を募りました。

数カ月後、Y氏のもとに社員たちが詰め寄ってきました。「社長、これ以上朝礼や勉強会を続けるなら、私たちは全員辞めます」と言われたのです。「皆のためにやっているのに、なぜ分かってくれないのだから」と思いましたが、何とかその場を収めました。

父から受け取った大切なものに気づいた時



その後、あるベテラン社員から「先代は自分たちを信じ、任せて仕事をさせてくれました。一方で社長は、お店を良くしたいとの思いばかりで、社員を締め付け過ぎています」と言われたのです。

確かに、先代である父は職人気質で、あまり言葉を発しない人でした。しかし、「まごころを込めてうどんを打ち、お客様に喜ばれる商品を提供する」という気概を持って仕事をしていました。そのような姿勢の父を、尊敬する社員が大勢いたのです。

一方で、「今の自分を、社員たちはどの様に見ているのだろうか」と考えると、性急に物事を変えようとあくせくし、空回りしていたことに気づきました。さらには、経営者モーニングセミナーで学んだ率先垂範をせず、社員を変えようとしていたのです。

それからのY氏は、自らが一番に出勤し、店内の隅々まで清掃するようにしました。社員が出社すると、明るい挨拶で迎え入れるよう努めました。数カ月後、社員たちが清掃を手伝ってくれるようになりました。

活力朝礼も、導入以来、継続して取り組んでいます。出来ることから始め、改良を重ねていった結果、少しずつ動きが合うようになってきました。朝礼では、父が遺してくれた経営理念を皆で斉唱しています。「地元のお客様にとって、なくてはならない存在となり、喜ばれる商品やサービスを提供します」という目標に向かって、日々奮闘しているY氏。父から譲り受けたお店を大切に守ろうと心新たに邁進しています。

七月の第一号「易の理」を学ぶ事は亦心は下へ